

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 紀北町地域公共交通会議

平成22年7月1日設置

令和27年7月1日 紀北町地域公共交通網形成計画策定  
(計画期間：平成27年7月1日～令和4年3月31日)

令和2年7月29日 フィーダー系統 確保維持計画策定

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
交通空白地を解消するために実施した6ヶ月の実証実験の結果を踏まえ、おでかけ応援サービス「えがお」の本格運行を開始した。	アンケート等で利用者のニーズを把握し、より使いやすい交通となるよう改善を行っている。 (車両台数を2台から3台に増車、当日受付の運行時間を17時30分まで延長、前日予約の夜間運行を20時まで実施等)	住民説明会の開催や、利用者ニーズの把握に努め、改善を実施しながらより利用しやすい交通を目指していく。 運転免許証自主返納の促進や、他の公共交通との乗り継ぎ利用などについて、さらにPRを行い利用者の増加を目指していく。
コロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを期待します。	飛沫防止フィルムの設置や車内の消毒等について、広報やホームページ、行政放送等でPRし、十分周知されていることから、安心して利用が継続されている。	引き続き、感染防止対策を徹底し、安心して利用できる旨の周知について、あらゆる媒体を活用して実施していく。
3路線が重複する地域間幹線について運行事業者と協力して見直しを行うとともに関係者間での課題の把握、利用促進策の検討について期待します。	平成30年4月から、尾鷲高校の学生に対し、バス通学利用者への定期券補助制度を開始している。 運行事業者と協議し、高校生の下校時に利用しやすいよう、最終便を1時間遅くするダイヤ改正が行われた。	運行事業者と協力し、感染症の影響により減少した利用者を取り戻すための説明会やPR、また新規利用者を増やすための体験乗車会などの利用促進策を実施していく。 また、関係者間で連携して交通課題の把握に努め、町営交通も含めた交通ネットワークの再編を検討していく。

## 2.協議会が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

紀北町地域公共交通網形成計画（平成27～令和3年度）において、公共交通の現状及び、ヒアリング、アンケート調査等から課題を以下のとおり整理している

- 課題 1. 公共交通不便・空白地域への対応
- 課題 2. 利便性の向上
- 課題 3. 利用しやすい新たな運賃体系の検討
- 課題 4. まちづくりとの連携
- 課題 5. 町民・交通事業者・行政等による協働の仕組みづくり



基本的方針：「地域協働型で生活を支える移動手段の確保とにぎわい、元気なまちの実現に寄与する公共交通の充実」

計画区域： 紀北町内全域

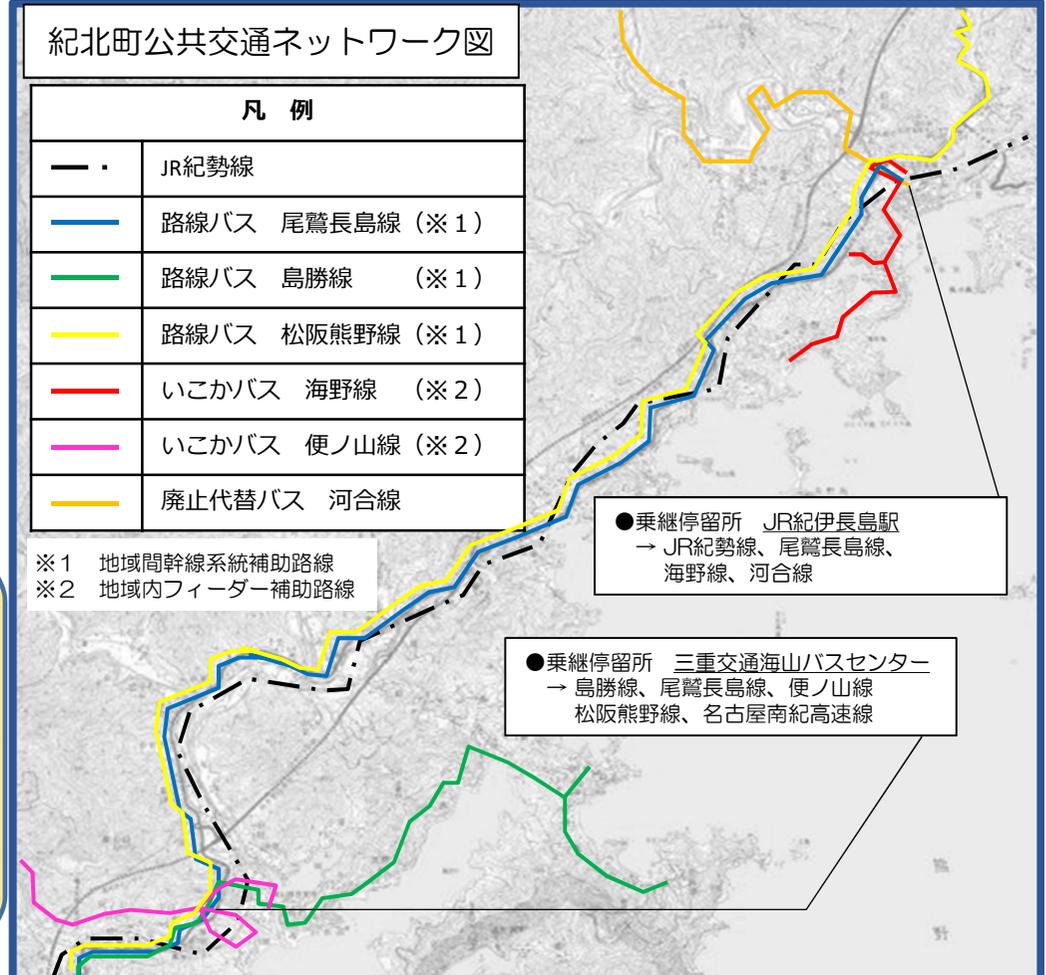
計画期間： 平成27年度から令和3年度まで（7カ年）

- 目標 1. 地域特性・利用者ニーズに即して、効率的な運行体系の構築
- 目標 2. 地域の活性化に資する交通サービスの提供と利用促進
- 目標 3. 地域の主体的な取組みを支援し一丸となる仕組みづくり

紀北町公共交通ネットワーク図

凡 例	
— .	JR紀勢線
— (blue)	路線バス 尾鷲長島線 (※1)
— (green)	路線バス 島勝線 (※1)
— (yellow)	路線バス 松阪熊野線 (※1)
— (red)	いこかバス 海野線 (※2)
— (pink)	いこかバス 便ノ山線 (※2)
— (orange)	廃止代替バス 河合線

※1 地域間幹線系統補助路線  
※2 地域内フィーダー補助路線



#### 主な取り組み内容

- **高校生バス通学定期補助制度実施（平成30年4月～）目標1,2,3**  
→ バス通学を行う尾鷲高校の学生に対し、バス通学定期券の約4割を補助。  
利用実績 H30：3名、R1：9名、R2：11名、R3：5名
  
- **おでかけ応援サービス「えがお」本格運行の実施（令和2年8月～）目標1,2,3**  
**（交通空白地有償運送によるタクシー的サービス）**  
→ 令和2年2～8月の実証実験の結果を踏まえ、利用者ニーズを反映した改善点を加えて本格運行を開始。（運行時間の改善、予約制での早朝運行開始）  
令和3年6月より2台運行から3台運行に増車（運行時間の改善、予約制での夜間運行開始）
  
- **運転免許証自主返納者への優遇措置**  
**コミュニティバス運賃半額割引制度実施（平成30年4月～）目標2,3**  
→ コミュニティバスの運賃半額割引制度を実施し、運転免許証自主返納制度を周知する三重県のサイト「自主返納サポートみえ」に掲載・周知。  
**運転免許証自主返納者へ「えがお」利用券を配布（令和3年4月～）目標1,2,3**  
→ 運転免許証を自主返納し、運転経歴証明書発行補助金を受けた高齢者に対し、「えがお」の利便性を周知するための利用券を配布。広報、チラシ等で周知。
  
- **住民アンケートの実施（令和2年10月～11月）目標1,3**  
→ 住民の意見を集約するため、2,000名（無作為抽出）に対してアンケートを実施。  
次期地域公共交通計画策定時に反映していく。

**公共交通空白地域の解消に向けて**● おでかけ応援サービス「えがお」 **運行実績**

運行期間：令和2年10月～令和3年9月（運休日：12月29日～1月3日）

月	運行回数（回）				延べ人数（人）				運賃 （円）	運行 日数 （日）
	海山	紀伊 長島	合計	日平均	海山	紀伊 長島	合計	日平均		
10	20	196	216	7.2	22	241	263	8.8	143,900	30
11	19	199	218	7.3	22	250	272	9.1	149,300	30
12	24	229	253	9.0	34	279	313	11.2	147,500	28
1	20	203	223	8.0	33	231	264	9.4	139,200	28
2	18	145	163	5.8	23	168	191	6.8	109,300	28
3	27	201	228	7.4	39	242	281	9.1	135,400	31
4	31	181	212	7.1	40	225	265	8.8	129,400	30
5	26	220	246	7.9	34	272	306	9.9	148,500	31
6	32	216	248	8.3	46	275	321	10.7	151,100	30
7	46	288	334	10.8	63	353	416	13.4	191,900	31
8	49	327	376	12.1	66	379	445	14.4	222,000	31
9	51	318	369	12.3	66	360	426	14.2	200,900	30
合計	363	2,723	3,086	8.6	488	3,275	3,763	10.5	1,868,400	358

#### ■ 「えがお」利用者アンケート結果（本格運行）

##### ➤ 自由記述（抜粋）

- ・声をかけてくれるのがうれしい
- ・行き帰り家まで迎えに来てくれるのでありがたい
- ・自分の車が使えないときに便利
- ・ずっと続けてもらいたい
- ・初乗り600円、往復で1,200円は高い
- ・障がい者割引はないのか
- ・買い物の間など待ってもらう時の料金を安くしてほしい
- ・大紀町錦へ行く手段がないので行ってほしい（大紀町バスは町民のみ）
- ・便利なシステムだが、利用が多くなると町外の方をどうするか考える必要がある
- ・運転手が親切で対応がよかった
- ・気持ちよく乗れた
- ・帰省した時に困っていたので助かった

##### ➤ 終了時間の要望

- ・18時1件、19時3件、20時1件

##### ➤ 運行範囲の要望

- ・尾鷲9件（総合病院など）、松阪1件

#### 《アンケートの分析》

##### ◎接客及び運行等について

- ・接客や運行については、概ね高評価をいただいている。今後も、町民の意見をしっかりと聞き取り、さらにブラッシュアップしながら継続していきたい。

##### ◎終了時間延長について

- ・令和3年6月より、車両の増車及びドライバーの増員を行い、待ち時間や時間変更なく、より利用者の希望どおりに運行できる体制を構築した。
- ・さらに、運行時間の延長について利用者のニーズが多かったことから、当日申し込みの運行時間を17時30分まで、さらに前日までの事前予約で17時30分から20時までの夜間にも運行ができるように改善した。

##### ◎運賃の値下げ及び町外への運行について

- ・運賃や町外への移動については、えがおをはじめとするすべての公共交通機関を1つの移動ネットワークとしてとらえ、より利用しやすくより利便性の高い交通をめざしていきたい。

## 4.計画の達成状況の評価指標とその結果 (Check)

- 目標値：いこかバス、廃止代替バス、地域間幹線路線バスの利用者数  
 (紀北町地域公共交通網形成計画およびフィーダー系統確保維持計画に設定した目標数値)  
 R4.1.13 紀北町地域公共交通会議において自己評価を実施した。

令和3年度	目標値 [人]	実績値 [人]	達成率 [%]	目標値設定基準
いこかバス海野線 (地域内フィーダー)	1,517	1,126 (前年度：1,160)	74.2	フィーダー系統確保維持 計画で定めた目標数値
いこかバス便ノ山線 (地域内フィーダー)	1,471	893 (前年度：1,128)	60.7	〃
廃止代替バス 河合線	6,310	2,380 (前年度：3,257)	37.7	平成26年度実績から前 年比2%利用者増と設定
路線バス尾鷲長島線 (地域間幹線)	67,000	31,400 (前年度：35,754)	46.9	平成26年度実績の 現状維持
路線バス島勝線 (地域間幹線)	55,000	22,797 (前年度：29,471)	41.4	〃
路線バス松阪熊野線 (地域間幹線)	—	14,376 (前年度：19,082)	(前年比 75.3)	網形成計画において 目標値未設定
おでかけ応援サービス 「えがお」 (地域内フィーダー)	1,974	3,763 (前年度：267)	134.8	フィーダー系統確保維持計 画で定めた目標数値 (前年度はR2.8.17～9.30運行分)

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による高齢者の外出控えの影響が大きく、全体的に大きく利用が落ち込んだ。感染症の収束状況を見ながら、新規利用者を増やすためのバス体験乗車会等を実施していきたい。地域間幹線については、通学定期補助制度が周知され、高校生利用者が年々増加しているので、さらに利便性をPRし利用を獲得していきたい。
- ・おでかけ応援サービス「えがお」については、利便性の高さと、貸切による密を避けた交通手段として認知され、利用が伸びている。

## 前ページの実績を踏まえて

- いこかバス : 人口減少の影響と新規利用者が増えないことによってH28頃より減少傾向にある。加えてR2より新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに利用者数が大きく減少した。感染症の収束状況を見ながら、新規利用者を獲得するためのPR、取組が必要。当地域は車社会であり、バスを利用した経験がない高齢者が多くいることから、体験乗車会等の実施により、安価なバスの利便性を周知したい。
- 海野線及び便ノ山線
- 河合線 : 長年見直しをしておらず減少が止まらない。次期計画策定に合わせ見直しを検討する。
- 地域間幹線 : バス通学定期補助について、4年目となり学校へのPRや口コミによって利便性が周知され、年々利用者が増加している。一度利用した学生は、多くが翌年度以降も利用している。  
高校下校時の便について時間帯が早いため、クラブ活動後の学生が利用しやすくなるよう調整を図り、新規利用者の取込みを図りたい。高校の入学説明会や学期ごとのチラシ配布に加え、中学3年生や保護者に対しても制度のPRを行っていく。
- おでかけ応援サービス : 高齢化率の高い当町にとって、ドアツードアのデマンド運送という利便性の高い新たな交通手段として、住民ニーズを確実に調査、反映しながらより良い交通に育てていく。  
「えがお」 「えがお」を基軸として、それを町内公共交通網とうまく組み合わせて「おでかけ応援サービス」を向上していくための施策を検討し、次期地域公共交通計画に反映し、新たな公共交通ネットワークの確立を目指す。

## 公共交通空白地域の解消に向けて

▶ 紀北町地域公共交通網形成計画に挙げた目標値

	平成26年度数値	目標値 (令和3年度)	実績値 (令和3年度)
公共交通不便・空白地域	16 / 107地区	0 / 107地区	<b>0 / 107地区</b>

### ◎おでかけ応援サービス「えがお」

交通空白地有償運送による紀北町ならではの新たな交通の確立に向け、6ヶ月間の実証実験の結果を踏まえて本格運行を開始（令和2年8月～）。

- ・ 運送区域：町内全域
- ・ 運送形態：ドアツードアのデマンド運送
- ・ 旅客の範囲：1人で公共交通機関を利用できる方
- ・ 受付時間：8：20～17：00（1週間先まで予約可）
- ・ 運送時間：7：00～20：00（7：00～8：30、17：30～20：00までの利用は前日までに要予約）
- ・ 運賃：1運送につき初乗り10分600円、以後1分ごとに100円追加

※65歳以上の方は初乗り回数券（6回3,000円）を利用可

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 紀北町地域公共交通会議

令和4年1月21日

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【補助対象となる事業者名等の名称を記載】</p>	<p>【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】</p>	<p>【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】</p>	<p>A・B・C評価</p> <p>【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】</p>	<p>A・B・C評価</p> <p>【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】</p>	<p>【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】</p> <p>※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載</p>
<p>三重交通株式会社 いこかバス海野線</p>	<p>海野鏡神社 ～ 紀北町役場</p>	<p>・広報誌、行政情報番組での公共交通のPRや運転免許証自主返納支援のPR等を実施。</p>	<p>A</p> <p>・運行計画どおり運行し、メディアを活用したPR事業を実施した。 ・飛沫防止シートの設置や消毒など感染症対策を徹底し、その周知を行った。 ・住民を集めての体験会等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しなかった。</p>	<p>B</p> <p>・地域内フィーダー系統確保維持計画で定めた目標数値(年間利用者1,517人)に対し、年間利用者1,126人となり目標を達成できなかった。 ・新型コロナウイルス感染症について、年度前半は町内での陽性者発生や三重県にまん延防止等重点措置発令があったが、公共交通機関の感染防止対策が徹底され、十分に周知されていることから、安心して利用が継続されている。 ・年度後半には、全国的な第5波の到来や町内で複数の陽性者発生、緊急事態宣言の発令などにより利用者が減少しているが、海野線沿線地区のえがお運行数が増加している。コロナ禍においてバスとえがおの組み合わせによる安心して利用できる移動ネットワークが確保されている。</p>	<p>・引き続き、感染防止対策を徹底し、安心して利用できる旨の周知をあらゆる媒体を活用して行っていく。 ・新型コロナウイルス感染症の収束状況を見ながら、感染症の影響により減少した利用者を取り戻すための説明会やPRなどの取り組みを行っていく。 ・新規利用者を増やすため、バス体験乗車会などの取組を実施する。当地域は車社会のため、安価なバスを利用したことがない方が多く、利用までのハードルが高いことから、一度体験することによる効果を期待している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響と、おでかけ応援サービス「えがお」の実施により、町内の公共交通の形態が大きく変化していることから、複数ある町営の公共交通の再構築について、調査・検討していきたい。</p>
<p>三重交通株式会社 いこかバス便ノ山線</p>	<p>木津 ～ 海山総合支所</p>		<p>A</p>	<p>B</p> <p>・地域内フィーダー系統確保維持計画で定めた目標数値(年間利用者1,471人)に対し、年間利用者893人となり目標を達成できなかった。 ・新型コロナウイルス感染症について、年度前半は町内での陽性者発生や三重県にまん延防止等重点措置発令があったが、公共交通機関の感染防止対策が徹底され、十分に周知されていることから、安心して利用が継続されている。 ・年度後半には、全国的な第5波の到来や町内で複数の陽性者発生、緊急事態宣言の発令などにより、利用者が少し減少傾向にあるが、安定して利用されている。</p>	

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
紀北町 おでかけ応援サービス 「えがお」	紀北町内全域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌、行政情報番組、チラシ、ポスター等によりPRを実施。</li> <li>・利用者アンケート等からニーズを把握し、より使いやすい交通となるよう改善を実施。</li> <li>・高齢者に対し、免許返納特典としてえがお利用券6枚分を配布。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行計画どおり運行し、メディアを活用したPR事業を実施した。</li> <li>・飛沫防止シートの設置や消毒、検温など感染症対策を徹底し、その周知を行った。</li> <li>・住民対象の説明会等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しなかった。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内フィーダー系統確保維持計画で定めた目標数値(運行回数1,795回、利用者数1,974人)に対し、運行回数3,086回、利用者数3,763人と大きく目標を上回った。</li> <li>・本運行開始から1年以上が経過し、町民に広く周知されている。</li> <li>・アンケートによると利用者のリピート希望率が100%と高く、利便性の高さが認知されている。</li> <li>・感染が拡大した期間においては、貸し切りで利用できる安心感により、バスと組み合わせで利用されており、町民が移動手段を選択できるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、感染防止対策を徹底し、安心して利用できる旨の周知をあらゆる媒体を活用して行っていく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の収束状況を見ながら、住民説明会の開催や、利用者ニーズの把握に努め、改善を加えながらより利用しやすい交通を目指していく。</li> <li>・運転免許証自主返納や、他の公共交通との乗り継ぎ利用などについて、さらにPRを行い利用者の増加を目指していく。</li> </ul>

# 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月21日

協議会名:	紀北町地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本町は、過疎化・高齢化が全国平均より早く進んでおり、高齢化率が45.7%に達しています。特に周辺部では顕著で、高齢者の一人世帯や高齢者のみの世帯が多数存在しています。</p> <p>そこで平成23年7月に、公共交通空白地域に居住している、主に車を持たない高齢者の方等の移動手段を確保し、地域での暮らしを支援することを目的として、コミュニティバス「いこかバス」の運行を開始しました。当該地域から病院やスーパーが集積する中心部までの2路線を運行しているこの路線は、運行開始後も随時聞き取り調査等を実施し、需要に合わせて停留所の増設やダイヤ改正を行いながら現在に至っています。また、地元商工会が展開するご当地ICカードのポイントでの運賃支払いや、運転免許証自主返納者の方に対する運賃半額制度を導入する等、利便性の向上にも努めてきました。</p> <p>その後、平成27年7月に紀北町地域公共交通網形成計画を策定し、「地域協働型で生活を支える移動手段の確保とにぎわい、元気なまちの実現に寄与する公共交通の充実」を基本方針として、町の交通施策を進めてきたところです。そのような中、平成28年12月には町内に唯一あったタクシー会社が廃業し、高齢者の日常生活の移動手段の確保や、ラストワンマイルの移動、観光客の移動などが大きな課題となりました。</p> <p>そこで、今もなお残っている公共交通空白地域の解消を目的として、令和2年2月より自家用有償運送を活用したドアツードアのデマンド交通システムの実証実験を実施し、住民のニーズを反映して、おでかけ応援サービス「えがお」として令和2年8月より本格運行に移行しました。既存の地域間幹線、JR、コミュニティバス、廃止代替バス、福祉タクシー等と連携し、お互いに補完し合いながら、さらに利便性が向上するように改善を行っていきます。</p> <p>今後も、生活にとって欠かせない公共交通については、交通空白地域の解消、ニーズに応じた改善の実施、利用者の増加などにより、安定的な路線の維持と移動手段の確保を図っていきます。また、複数ある町営の公共交通については、おでかけ応援サービス「えがお」を中心として再構築を検討し、withコロナの新しい生活様式の中で最も効率的で持続可能な公共交通の確立を目指していきます。</p>
-----------------------------	---